

放射線科

1. 2006 年度目標

1)PET-CT センターの 2006 年 6 月 1 日立ち上げ

20 年間の準備期間を使い、用地確保、設計、建築、各省庁への許可申請を行い 2006 年 6 月に開設にたどり着いた。PET-CT の保険請求は複雑であること、検査点数が高いことから臨床科からの依頼にためらいがみられる。しかし、臨床検査としては非常に有用であり、亀田総合病院になくてもならないものである。さらにこのプロジェクトへの投資は大々的であり、運営の成否は亀田メディカルセンター全体の経営に直接影響する。そのため、放射線科だけではなく院長や理事長、副理事長たちの積極的な後押しで確実に成功に導きたい。

- 達成基準または具体的推進案として -

PET-CT センターの立ち上げに対する院内各科診療医師への協力要請、近隣病院、医院への説明、パンフレット配布などによる検査件数の着実な立ち上がりを期する。当初半年間は 1 日 20 件、年末には 30 件を期する。そのためのスタッフの教育、医師補充を行う。

2)2006 年末までに 1.5 テスラ MR 装置の新規導入、稼働

- 達成基準または具体的推進案として -

乳腺科医師充実、今年末から始まるバス検診に伴う MR 検査件数の増大に対し、クリニック画像診断センターに 1.5 テスラ MR 装置の新規導入、稼働を行う。本年当初の予定に入っておらず、放射線科技術師教育や配置の工夫をする。

3)2007 年夏をめどに放射線治療機器であるガンマナイフの新規導入

- 達成基準または具体的推進案として -

ガンマナイフを現在の放射線治療センター近隣の特浴を改造し、前処置室も知覚に確保し、新規導入をはかる。その専門の脳外科医の招聘も同時に行う。1 日 2 人治療すれば採算が十分にとれるので、それが導入後 1 年後にまで達するようにカスタマーリレーション部と連携しながら進める。

4)ジュニア、シニアレジデントの教育環境を整える

- 達成基準または具体的推進案として -

ジュニア、シニアレジデントの教育環境を整えるべく、ミニレクチャア、抄読会の充実、関連施設あるいは外国とのレジデント教育連携、留学の受け入れ環境を構築する。

2. 2005 年度の目標評価

1)前立腺癌永久挿入小線源治療(シード治療)の立ち上げ

この 10 年間に北米で飛躍的に発展し、2004 年に日本でも認可された治療である。限局期前立腺癌の治療は前立腺全摘、放射線外照射、本療法で治療成績は同等であり、治療期間、入院・外来治療、合併症の種類・頻度など患者のニーズに応じて治療法を選択するのが最近のトレンドになりつつある。本療法を開始することにより、病院のブランドイメージの向上による患者数増加も見込まれる。

- 達成基準または具体的推進案として -

泌尿器科、コメディカルスタッフとのチーム治療となる。B 棟手術室内に専用治療室の整備、治療機器の導入、治療手技の訓練、手術室・病棟コメディカルスタッフの教育訓練などが必要である。線源

紛失などの事故が起きると病院全体に影響が及ぶため、リスク管理がなにより重要である。

- 最終実績として -

予定通り、B棟手術室内に専用治療室の整備、治療機器の導入が行われた。治療手技の訓練、手術室・病棟コメディカルスタッフの教育訓練も行われ、実際に治療が開始されている。

ただし、治療件数は最初期待したほどには伸びておらず、こちらもなんらかのてこ入れが必要と考えられる。

2)治療機器故障による治療遅延状況の改善

- 達成基準または具体的推進案として -

2004年度第4四半期からリニアックの故障による治療遅延が増加している。治療成績の低下、顧客満足度の低下が懸念されるため、機器メンテナンスレベルを見直し、故障による治療遅延をゼロに近づける。

- 最終実績として -

リニアックの故障は塩害によるボルトの錆が原因となっており、それによる機器固定が十分でないことがわかった。

現在は順調ではあるが、錆の根本的対処はなされておらず、またこの修理には大々的に本体取り替えが必要となる。現状ではできるだけ長く使うようにして行くしかないと考えられる。

3)後任者への業務引継

- 達成基準または具体的推進案として -

放射線治療担当医が交代する予定であり、治療品質の維持、リスク管理などに問題が生じないような程度の引継期間が必要である。

- 最終実績として -

放射線治療担当医を探し、女子医科大学、東京医科歯科大学などに協力を要請した。しかし交代医師は見つからなかった。ただし、庄司先生が退職を翻意され、亀田総合病院への永久就職を希望されたため、問題は自然消滅することになった。

今後、放射線治療件数の増大が見込まれることから、引き続きリクルートは必要と考え、継続するつもりである。

3 . 2006年度のスタッフ - 2006.7.1 現在 -

主任部長：大内敏宏

部長(神経放射線診断、IVR)：菊池陽一

(2003.4.1 着任) 医長・治療センター長：庄司一寅

(2001.7.1 三重医大放射線科から着任) 医長：伊藤憲佐 (2005.5.1 任命)

医員：遠藤英穂 (2005.4.1 着任)

シニアレジデント：東 麻子 (2006.5.1 着任)

4 . 診療活動

2001年度に放射線科内に「血管造影・血管内治療部門」を新設し、放射線治療センターも開設したことで、現在放射線科は「画像診断部門」、「血管造影・血管内治療部門」、「放射線治療部門」の三部門

となった。なお、2004年6月からは新たに脳血管内治療部門で田中美千裕部長が診療を開始したが、2005年4月1日より脳外科に移動し、活動を継続している。

2005年4月1日よりフィルムレス開始による新たなレポートシステムを開始した。2006年6月1日に亀田クリニックPET-CTセンターが開設した。

【画像診断部門】

1) 読影内容

CT、MRI、核医学検査(PET-CTを含む)、読影依頼のある一般撮影の読影(特に術前の肺単純写真)、他院からの読影依頼へのレポート作成である。読影レポートは電子カルテに記載され、撮影翌日以内に読影レポートが作成されるようになっている。救急患者の読影は翌日に行っており、所見がありながら見逃されている場合には主治医へ連絡し、フォローアップを行っている。現在、乳腺関係の読影に関しては、乳腺科に放射線診断を行っていた戸崎先生が2006年4月1日から着任され、専門に乳腺撮影、MR、CTの読影を行っている。

読影件数は下記の通りである。

2005年4月1日～2006年3月31日 中枢神経系 22,425件、胸腹部系 22,052件、合計 44,477件/年、平均 3,704/月で昨年度の 2,211/月の約 1.67倍となっている。フィルムレスになると仕事量は1.5倍に膨れると昨年の業績集で予想したが、実際も同等以上の読影量となっている。

血管造影・血管内治療件数は2005年4月1日から2006年3月31日の間で腹部四肢血管造影総件数 323件で、腹部血管撮影 243件(IVR121件)、四肢血管 80件(IVR55件)、CTガイド下生検 20件施行されている。

2) 読影システムの変更

2005年4月からクリニック、病院ともフィルムレス化が実行された。これに合わせて、読影も液晶画面 9メガ2面ないし 2メガ3面を用いたコンピュータブースを作り、読影にあっている。

5. 教育関係

1) 放射線科主催のカンファレンス

毎朝 8:30 部内カンファレンス

毎週金曜 16:00 肝カンファレンス

毎週金曜 17:30 神経内科カンファレンス

毎月第3月曜 16:30 婦人科カンファレンス

毎月第3火曜 17:30 泌尿器科カンファレンス

毎月第3木曜 17:30 小児科カンファレンス

毎月最終木曜 17:30 救急部カンファレンス

毎月最終月曜 18:00 整形外科カンファレンス

毎月第1水曜 7:30 脳外科カンファレンス

2) 参加カンファレンス

院内

- ・モータリティカンファレンス
- ・消化器・病理 CPC

- ・胸部カンファレンス
- ・乳腺カンファレンス
- 院外(学会は除く)
- ・画像診断の基礎と臨床学術講演会 (鴨川グランドホテル、年 2 回、代表世話人 大内敏宏)
- ・関東 MR 症例検討会 (東京、日本シェーリング、年 11 回、代表世話人 大内敏宏)
- ・千葉神経画像懇話会 (年 3 回、千葉市、代表世話人 大内敏宏)
- ・関東 NR 懇話会 (年 11 回、世話人 大内敏宏)
- ・千葉県画像カンファレンス (年 4 回)
- ・千葉県消化器病研究会 (年 3 回)
- ・千葉県 MR 研究会 (年 2 回)

3)画像センターパラメディカル勉強会

画像センターでは毎月 1-2 回の勉強会がパラメディカル・スタッフを対象に開催されており、1 月 1 回講義を放射線科医師が担当した。

6 . 放射線科研修目標

(Version 2.00/2002.6.10 改訂)

亀田総合病院のレジデントを対象とする放射線科研修目標を 2001 年 12 月に作成した。当院には全国から優秀な学生諸君がレジデントに応募し、初期 2 年間のスーパー・ローテーションを行っている。この中から 3 年目以降に放射線科に残ってくれる人材が出ることを期待しており、2006 年 5 月 1 日より東先生がシニアレジデントとして放射線科に入局した。また、本年度の放射線科志望ジュニアレジデントとして大内恵理が亀田総合病院に就職した。

1)業務紹介・スタッフ数

通常の放射線外部照射に加えて、以下の特殊治療を行っている。脳定位照射、体幹部定位照射、全身照射、高線量率小線源治療。

治療期間延長による治療成績低下の問題に対処するため、年末年始・5 月連休に休日照射を行っている。(完全週 5 回照射)

スタッフ数は放射線治療専門医 1 名、診療放射線技師男性 2 名、女性 2 名、事務職員 1 名で運営している。

2)年間活動内容と実績 (表 1)

	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度
新規登録患者数	264	274	340	389
治療計画数	365	348	534	624
脳定位照射患者数	10	2	3	4
体幹部定位照射患者数	10	9	12	7
全身照射患者数	7	8	8	13
小線源治療患者数	N/A	9	14	9

2005 年度前立腺シード療法患者は 1 例。2006 年 2 月 21 日時点までで 3 例施行している。

文責：大内敏宏